

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1091100154		
法人名	株式会社ティエムコーポレイション		
事業所名	グループホームなないろ		
所在地	群馬県安中市宿2153-1		
自己評価作成日	平成28年10月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成29年11月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・毎日の生活の中で笑顔を出るだけ引き出し、楽しかった一日を過ごして頂く。 ・行事など、できるだけ全員参加を目標としています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、法人の他のグループホーム、小規模多機能型居宅介護事業所と連携し合って、運営している。3施設合同によるバーベキュー開催時においては、家族の他に区長、老人会、民生委員、地域の人達を多数招待し、地区の公会堂から、テント・テーブル・椅子等を借り受け、近隣のスーパーの駐車場を開放して開催している。開催後は、施設長、管理者等で反省会を行い、利用者や家族等参加者からの意見や感想を聞いて、次につなげている。日々においては、利用者一人ひとりの思いや意向を大切に、その人に合った声かけや会話に努め、季節ごとに行われる外出行事では、重度の方であってもできるだけ参加ができるように配慮し、理念にある地域の中でその人らしい暮らしが継続できるよう支援に取り組んでいる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を唱和することはなくなったが、その人らしい暮らしを職員と共に業務の中で追及しています。	日々、理念を念頭に、その人らしく無理のないような支援の実践に努めている。毎月の全体会議では、理念の確認や話し合いをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区のお祭り、初詣に参加したり、地域の方参加の防災訓練など実施している。	地域の公民館主催の行事等への参加を行い馴染みの関係を築き、地区のお祭り際には山車が事業所の前に止まってくれるなどの交流が行われている。その他、積極的にボランティアの受け入れや法人主催のバーベキュー開催時に地域の人達を招待し、交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の課題としてあげ、理解していただけるよう努力します。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間行事や、利用者の状況など報告し、意見交換をしています。	運営推進会議では、事業所の状況等を報告し、意見交換をしている。また、会議開催と同時に防災訓練やバーベキュー等のイベントを行い、参加者から意見や感想を聞き、運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の課題としてあげ、理解していただけるよう努力します。参加時などに相談し指導して頂いています。	市の担当者とは、運営推進会議の他に事業所の防災訓練に参加していただき、また、外部研修への案内をいただくなど、連携しながら取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束はしないケアに取り組んでいます。玄関も開放し施錠はしていません。	玄関は施錠せず、自由に入出入りできるようにしている。居室内での転倒事故防止のためセンサー設置を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者様の訴え、全身状態の観察、申し送りなどから見過ごすことのないよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されている方がいないので職員の学びは出来ていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には利用者、家族への説明を行い、傾聴し、確認を行っています。家族への不安、疑問などあった場合、問題解決に努めるよう準備しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の意見などには管理者、職員で話し合い意見交換しています。	家族の面会時や毎月、利用料を持参して頂いた際に、直接家族の意見や要望を聞くようにしている。家族からは、職員の顔写真掲示の問い合わせがあり、職員間で話し合っ事務所入口への掲示を行うなど、意見を反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議にて意見交換しています。	毎月、全体会議を行い、職員の意見や提案を聞くようにしている。ケア方法についての意見交換や備品購入希望等の意見が出され、話し合いをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に代表者は職員の相談にのり向上心もてる職場環境作りに働きかけています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修等になるべく参加する機会をもうけ職員のレベルアップに努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修等になるべく参加する機会をもうけサービスの質が向上するよう取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者本人が訴えが出来る方は耳を傾け家族、職員と相談します。 訴えができない方には家族、職員、管理者にて意見交換し安心の確保に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	会議、面会での情報交換を密にして信頼関係に努めます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の要望、家族の要望を聞き取り許可を頂き必要としている支援を見極めサービスにつなげられる様、努力しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る能力を職員一同共有し支えあう関係を築く努力をしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡、相談を密にし支え合う関係を築く努力をしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会、慰問、外出を通し利用者様の人間関係が途切れないようにしています。	ボランティアメンバーの知人の方が来所され、利用者と歓談されている。また、近隣の知人宅へ職員が付き添い出かける等、馴染みの人や場との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員の目配り気配りをして安心して過ごせる様努力しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時には面会に行ったり家族と質問、相談を密にしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	面会時などを利用してご家族と相談、意向を伺い検討しています。	日々、コミュニケーションを大切にして、本人の思いや意向の把握に努めている。家族宛への手紙の投函に職員が付き添う等、本人、家族との絆を大切にしながら支援を行っている。意思疎通が困難な方には、家族の意見を参考に支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様との会話、利用者様との会話で把握、確認し努力しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り、ミーティング、ご利用者との関わりの中で現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や家族の意見や要望を聞き、モニタリングやカンファレンスを行って介護計画の見直しや作成に活かしています。	利用者1~2名を職員が担当し、担当職員は月末までにモニタリングを行い、計画作成担当者がまとめている。介護計画は3ヶ月ごとに見直しを行い、状態の変化においては、その都度見直しをしている。なお、サービス担当者会議には家族も参加している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	担当職員による個々のモニタリング記録の情報を共有し、ケアプランの見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々個々の状況に応じ出来る限りの支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会、ボランティア、民生委員など連携を取り、接点を見出す努力をしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回往診診療あり、その他でも家族付きそいの受診となっているが無理な時には受診介助を行っています。	契約時に希望のかかりつけ医を聞き、事業所の協力医療機関による訪問診察についても説明している。現在、全員の方が月2回の訪問診察を、入居前からのかかりつけ医や協力医療機関の医師から受けている。歯科受診については必要時、往診を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送り、業務の関わりを通して看護職員と情報交換をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ病院との連携を密にして安心して治療が出来る様努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り指針にもとずき、状況を見ながら説明を行い、同意書をもらい家族、主治医、全スタッフと情報の共有に努めています。	重度化や終末期においては、看取りに関する指針に基づき説明している。看取りを希望される場合には同意書により確認を行い、家族・医師・職員間で情報を共有して支援することとしている。なお、事業所は、看護師を配置している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時には初期対応、連絡、報告できるようミーティング等で話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	連絡体制が迅速にできる様、ミーティング等で話あっている。	年2回、消防署立ち合いのもとに避難訓練を行っている。訓練は利用者、職員で行い、運営推進会議の参加メンバーが見学し、実施後に意見や感想を聞いている。備蓄は防災グッズの他に、飲水・食料品等を3日分準備している。	災害対策においては、訓練時を含め地域住民等、多くの協力体制が得られるような取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊重するよう声掛け、目線の位置などに注意し支援を行っています。	敬語ばかりでは堅苦しくなってしまうので、利用者一人ひとりに合った声かけを心がけ、利用者の目線の高さにあわせた会話に努めている。ときには、「だんべ」等の方言を入れたりすることで、心を開いてくれる利用者もいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	かかわりの中で思いや希望を自己決定できるように働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に応じた対応を心掛けているが、訴えが出来ない利用者には希望に添えているかわからない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の趣向を尊重し支援します。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	レクの一環として焼きそば、ホットケーキなどをみんなで協力して作業しています。	献立、食材共に業者を利用している。また、行事食、外食等を取り入れ、希望を聞き、刺身・漬物なども提供している。利用者は食事前の挨拶を当番制で行い、職員と一緒に会話をしながら食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量、一日の水分量などのチェック、月1回の体重測定、往診時主治医に報告しアドバイスをもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き、義歯洗浄、ガーゼによる口腔ケアを実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記録をもとに排泄パターンの把握に努め、トイレ誘導の実施に努めています。	排泄チェック表を確認し、日中は重度の方であってもトイレでの排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	多様な体操等による身体的な促しと共に内服によるコントロールなど個別に支援しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望、その日の体調に合わせて、気持ちよく入浴できるよう努めていますが曜日、時間帯は施設で設定しています。	入浴は夏季は週3回、冬季は週2回とし、一人ずつ、職員と会話をしながらゆっくり入っている。重度の方には、職員2名で対応している。なお、お風呂に入らない日には足浴をしたり、清拭を行ったりして清潔保持に努め、気持ちよく過ごせるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	身体状況、体調に合わせて声掛けをし、了解して頂き休んでもらいます。声掛けをし希望あれば足浴も実施しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	確実に服薬支援を行うとともに、主治医、薬剤師、看護師、介護士情報の共有を密にしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物、新聞たたみなどの軽作業を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事担当が季節に合わせた外出を考え、出来るだけ利用者全員参加に努めています。	天気の良い日は、敷地内での外気浴や近隣のスーパーへ買い物に出かけたり、近くの職員宅の庭の花を見に出かけたりしている。季節ごとの外出行事は、できるだけ全員の方が参加できるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現時点でお金を持っていたいという希望の利用者はいないが今後、訴えがあれば家族、了解のもと支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員付添にてポストまで手紙を出したりと支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井が高いホールなので開放的な気分で過ごせる様になっています。季節にあった飾りもしています。	共用の居間は天井が高く、明るい日差しが差し込んでいる。テレビ2台が設置され、ソファで寛ぎながら鑑賞したり、場所を変え椅子の席で観賞したりすることができる。壁面には、外出行事等の写真や季節の花や落ち葉など手作りの作品が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の配置などに気をつけ一人ぼっちにならない様工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各個室には使い慣れた仏壇などを置いて安心して頂ける様配慮しています。	居室には、仏壇や馴染みの鏡台などが持ち込まれている。また、家族の写真や手作りの作品等が飾られ、本人が居心地よく過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	状況に応じ環境整備に努めています。利用者が混乱しないよう未然に防げるよう職員同士話し合っています。		